

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。毎日、暑い日差しが照り付ける中、皆様はお変わりございませんでしょうか。

今回は、日本時間7月24日、ポーランド・グラニクスで行われた、バレーボール ネーションズリーグ男子決勝大会で見事3位、銅メダルを獲得した日本チームに注目しました。

男子バレーは1972年ミュンヘン五輪で金メダルを獲得するなど、70年代は世界のトップと競っていたが、以後は低迷していました。外国に学ぶ立場となっていたが、ミュンヘンの成功体験から協会は頑として外国人指導者を招かなかった事が原因でした。2013年に初の外国人監督としてゲーリー・サトウ氏が招かれたが、1年で解

任。現監督のフィリップ・ブラン氏が日本を指導するまで長い年月がかかったそうです。ブラン氏は、選手一人一人に課題を与え、徹底的基礎から鍛えなおし、ひとつずつ克服する事で、チーム力を着実に向上させることに成功しました。今大会は1次リーグ開幕から10連勝を飾り、2位で決勝ラウンドに進出。1次リーグでは、五輪3度制覇のブラジルにフルセットの末、30年ぶりに勝利をおさめました。決勝ラウンドではベスト4に入る快挙を達成するも、ポーランドに敗れ3位決定戦にもつれ込み、イタリアに勝利し銅メダルを獲得しました。主要大会では1977年以来、実に46年ぶりの快挙でありました。パリ五輪へ向けての期待がさらに膨らみますね。この所、日本スポーツの強さが歴史を変えているのを目の当たりにし、スポーツを通して力をもらっていることを痛感します。【スポーツはみんなを元気にする】皆様も是非、スポーツを通して健康で元気な毎日を過ごされることをお祈りいたします。まだまだ暑い日が続きますが、皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

サービス提供責任者の魅力について



サービス提供責任者という役割がやりがいのある仕事です。ケアマネからきた計画書に添って援助内容を組み立て、ヘルパーに引き継ぐ・・・

各ヘルパーや利用者様から上がった問題点をケアマネに報告し解決していく作業が楽しくて仕方ありませんでした。担当していた利用者様は約40名強でしたが毎日が充実していた事を思い出します。

あるヘルパーから「井上さんはヘルパーの時も楽しいといい続けていたけど、私は楽しくないのよ」と相談されたこともありました。ヘルパーの仕事は思った程生易しい仕事ではないことも分かってはおりました。

サービス提供責任者に従事したばかりの頃は、何をして良いのかが分からずに毎日眠れなくなるまで思い悩んだ時期もありました。主人からも毎晩寝言で「何とかさん、こうではないんですか・・・」等言ってたよとの話も出た程、自分の受け持った利用者の援助内容は適切なんだろうか？ケアマネに提案する事はないのだろうか？と思ったものでした。今思い返すに、仕事上で本気で思い悩んだり、上司に怒られたりした時に自分が成長したのではないかと考えています。

この介護職を愛して止まない私にとって、毎日が真剣勝負だと考えており、出来ないと決めるのは自分でしかなく、出来ないと思った瞬間から何もできなくなる。出来るようになったら何でもできると・・・何時も自分に言い聞かせている次第です。



8月カレンダー制作

各自、折り紙でひまわり、葉っぱ、曇を作り、画用紙に貼り付けてカレンダー工作をしました。



レクリエーション

新聞紙でボウル送りのレクリエーションをしました。全員でボウル送りをしたり競争もして皆さん白熱されていました。

NEWS 今月のニュース

介護職の魅力、当事者が発信 県が「アンバサダー」養成

県は本年度、新たに、当事者として介護職の魅力を発信する「KAIGO PRIDE (カイゴプライド) アンバサダー」の養成に取り組む。中高生らに仕事のやりがいなどを伝える役割の人材を育成し、現役の介護職員が誇りを再認識することで、人材確保や離職防止につなげる。

県の推計では、介護職員の不足数は2020年が766人だが、高齢化が進む25年は4倍以上の3270人に増える見込み。KAIGO PRIDEは介護職の内面的な「かっこよさ」などに焦点を当て、魅力をアピールする活動。19年の熊本県を皮切りに全国的な広がりを見せており、本県でも22年度から県の事業として展開している。

アンバサダーは現役の介護職員や経験者が対象で、研修を受けて認定される。学校や介護施設、各種イベントなどの講演依頼が県に寄せられた際、講師として仕事の魅力や経験などを自身の言葉で伝える。アンバサダーの養成に取り組むのは、本県が全国で初めて。

山形市の県村山総合支庁で24日に養成研修会が開かれ、内陸地域の男女11人が参加した。講師を務めた一般社団法人KAIGO PRIDE (東京)の常任理事・小口貴幸さん(37)は、高齢化が進む中で介護職の能力や技術が一層求められるとの見通しを示した。

研修を受けた介護老人保健施設メルヘン(山辺町)の介護福祉士・高内翔太郎さん(26)は、入所者の変化にいち早く気づき、脳梗塞の早期

発見につながった経験がある。「介護の仕事に誇りを持つ意識が、介護職員自身に浸透していない面がある。研修の内容を施設でも共有し、前向きな部分をこれからの世代に伝えていきたい」と話した。

庄内地域が対象の研修会は、28日に鶴岡市勤労者会館で開かれる。



当事者として介護職の魅力を発信するアンバサダーの養成研修会＝山形市・県村山総合支庁

<山形新聞 23/7/25(火)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>